

平成23年度西海ブロック水産業関係研究開発推進会議
 地域増養殖研究部会報告書

会議責任者	西海区水産研究所長
-------	-----------

1. 開催日時・場所 日時：平成23年11月10日（木） 9:30～12:30
 場所：長崎ブリックホール
2. 出席機関及び人数 7機関 39名
3. 結果の概要

議 題	結果の概要
1. 開会	西海区水産研究所資源生産部長が開会を宣言した。
2. 挨拶	西海区水産研究所長から、養殖を含む沿岸漁業を取り巻く状況が総括され、今後ますます重要性を増す沿岸漁業の問題解決には、水産関係者の連携が必須である旨の挨拶があった。
3. 座長選出	資源生産部長及び亜熱帯研究センター長を座長として選出した。
4. 議事	亜熱帯研究センター長が議事2)の座長を、資源生産部長がその他の議事の座長を務めた。
1) 研究開発の実施状況	各機関が登録・提出した平成23年度研究開発課題のうち、増養殖（ノリを含む）及び沿岸漁業に関する課題について出席者が紹介し、質疑が行われた。
2) 水産研究開発成果情報の審議	平成23年度水産研究開発成果情報について、西海ブロックに登録済みの増養殖・沿岸漁業分野7課題を各提出機関の出席者が説明し（沖縄県からの課題は亜熱帯研究センター長が説明）、内容を協議した。図表や表現などの軽微な修正を行うことを前提に、7課題全てが西海ブロックの成果情報として承認された。
3) 研究会等報告	資源生産部の担当者から、地域増養殖研究部会のもとで活動を行っている「水温変動沿岸資源影響研究会」の報告があった。本研究会は今年度で終了となるが、競争的資金等の獲得も含めて、今後も引き続き、沿岸域の環境変動や藻場及び磯根資源に関する情報交換を行っていくことが確認された。

4) 研究開発ニーズへの対応	<p>資源生産部長から、平成22年度に寄せられた研究開発ニーズへの対応状況の説明があった。</p> <p>アカアマダイの種苗生産及び放流の技術開発に関するニーズについては、栽培漁業日本海ブロック会議傘下の「アカアマダイ栽培漁業技術検討会」において、問題点抽出とその対策の論議がなされたことが報告された。</p> <p>ハタ類の種苗生産技術の開発に関するニーズについては、水産増養殖関係研究開発推進会議傘下の「クエ・マハタ種苗生産研究会」において、種苗の形態異常や減耗について論議がなされたことが報告された。</p> <p>キジハタの放流技術の開発に関するニーズについては、栽培漁業瀬戸内海ブロック会議傘下の「キジハタ分科会」において、放流試験結果が紹介され、放流技術開発について論議がなされたことが報告された。</p> <p>天然海域におけるアワビ類の衰弱・斃死現象の原因究明に関するニーズについては、未だその原因は不明であるが、山口県および九州7県と協力して聞き取り調査を継続し、実態把握に努めたことが報告された。今年度は、アワビ類に痩せ、衰弱、斃死は見られておらず、その取り纏め結果は、地域増養殖研究部会傘下の「水温変動沿岸資源影響研究会」で公表済みで、情報の共有化が図られている。</p> <p>引き続き、平成23年度地域の抱える懸案事項への対応状況の説明があった。特に、広域回遊性種の資源評価・管理の高度化については、資源評価調査部会傘下の「栽培対象種調査・解析作業部会」で水研横断的に検討・議論し、資源評価事業や海域栽培漁業推進協議会を通じて適宜情報提供等を行っていること、またトラフグは「資源管理指針事業（瀬戸内水研が中核）」でも関係県と高度化のための連携を図ってきたことが報告された。</p>
5) その他	<p>資源生産部の藻類グループ長から、全国水産業関係研究開発推進会議傘下の「全国ノリ研究会」の報告があった。また、本研究会の運営体制変更の検討についての情報提供がなされた。</p>
5. その他	<p>西海ブロック水産業関係開発推進会議の枠組み、同運営細目、同地域増養殖研究部会運営細目、西海区水産研究所の組織細目（水研センター組織規定より抜粋）を資料として添付した。</p>
6. 閉会	<p>西海区水産研究所資源生産部長が閉会を宣言した。</p>